

平成29年9月美馬市議会定例会議事日程（第3号）

平成29年9月14日（木）午前10時開議

日程第 1 会議録署名議員の指名について

日程第 2 市政に対する一般質問

日程第 3 議案第104号 美馬市農村地域工業導入審議会条例の一部改正について
議案第105号 美馬市立図書館設置条例の一部改正について
議案第106号 平成29年度美馬市一般会計補正予算（第2号）
議案第107号 平成29年度美馬市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
議案第108号 平成29年度美馬市介護保険特別会計補正予算（第1号）
議案第109号 平成28年度美馬市一般会計歳入歳出決算及び特別会計歳入歳出決算認定について
議案第110号 平成28年度美馬市公営企業会計決算認定について
議案第111号 辺地に係る総合整備計画の変更について
議案第112号 辺地に係る総合整備計画の変更について
議案第113号 辺地に係る総合整備計画の変更について

平成29年9月美馬市議会定例会会議録(第3号)

◎ 招集年月日 平成29年9月14日

◎ 招集場所 美馬市議会議場

◎ 開 議 午前10時00分

◎ 出席議員

1番	藤野 克彦	2番	浪越 憲一	3番	都築 正文
4番	田中 義美	5番	中川 重文	6番	林 茂
7番	武田 喜善	8番	郷司千亜紀	10番	井川 英秋
11番	西村 昌義	12番	国見 一	13番	久保田哲生
14番	片岡 栄一	15番	原 政義	16番	川西 仁
17番	三宅 共	18番	谷 明美	19番	前田 良平
20番	武田 保幸				

◎ 欠席議員

なし

◎ 地方自治法第121条の規定により説明のために出席した者の職氏名

市長	藤田 元治
副市長	加美 一成
副市長	七條 浩一
戦略監	浅野誠一郎
美来創生局長	上谷 敏也
企画総務部長	中川 貴志
保険福祉部長	四宮 明
市民環境部長	山田 一弘
経済建設部長	奥村 敏彦
水道部長	武田 光男
会計管理者	平井 佳史
消防長	武田 浩二
保険福祉部理事	川口 種満
美来創生局理事	矢田 孝志
木屋平総合支所長	江口 文之
企画総務部次長(企画政策課長事務取扱)	吉田 正孝
企画総務部秘書課長	渡邊 晴樹

代表監査委員	喜多 輝光
教育長	光山 利幸
副教育長	緒方 利春

◎ 本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	住友 礼子
議会事務局次長	南 佳幸
議会事務局事務副主任	井手 和輝

◎ 議事日程

議長は、議事日程を別紙のとおり報告した。

◎ 会議録署名議員の氏名

議長は会議録署名議員に次の3名を指名した。

3番	都築 正文	議員
4番	田中 義美	議員
5番	中川 重文	議員

開議 午前10時00分

◎議長（久保田哲生議員）

皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は全員であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元にご配付の日程表のとおりでありますので、よろしく願いをいたします。

それでは、本日の日程に入ります。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、3番 都築正文君、4番 田中義美君、5番 中川重文君を指名いたします。

次に、日程第2、市政に対する一般質問を昨日に引き続き行います。

通告の順序に従いまして、発言を許可いたします。

初めに、議席番号15番、原政義君。

◎15番（原 政義議員）

議長、15番。

◎議長（久保田哲生議員）

15番、原政義君。

[15番 原 政義議員 登壇]

◎15番（原 政義議員）

それでは、議長の許可をいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

職員の適正配置について。美馬市CCRCの現状について。国民健康保険の今後について。以上3点につき、お尋ねをいたします。

まず、職員の適正配置についてであります。安倍政権が掲げた「1億総活躍社会」を目指して、現在、働き方改革が大きく取り上げられております。人口や労働力人口が継続して減少している中で、長時間労働、残業などの悪しき慣習が日本経済の足を引っ張って、生産性低下の原因になっていると考え、働き方改革に積極的な動きが見られています。今年8月に発足した第3次安倍再改造内閣において、最大のチャレンジと位置づけ、働き方改革を進めております。働き方改革担当大臣を新設し、働き方改革実現会議を開催し、まさしく日本人の働き方を変えようとしております。そのような中、9月下旬に招集予定の臨時国会の最重要法案とされている、働き方改革関連法案の要綱が厚生労働省労働政策審議会分科会において提示されました。この働き方改革につきましては、まだまだ議論する必要があると思われませんが、長時間労働抑制策として残業時間の上限を初めて明記し、非正規労働者の待遇改善のために同じ仕事には同じ賃金が支払われるべきだとする「同一労働同一賃金」の実現を目指すことが提示されました。

さて、本題となりますが、先般の新聞記事におきまして、市町村職員の非正規化の記事がありました。行革や財政難を背景に非正規職員が増えてきており、本来、正規職員が行うべき業務を行っているとの記事もありました。そこでお伺いをいたします。美馬市にお

きましては、合併当初は多くの職員数でありましたが、行財政改革を行うことにより適正な人員配置になってきていると感じておりますけれども、美馬市の現状についてお伺いいたします。合併時と比較してどうなっているのか。正規職員、臨時職員の数、また、類似団体、近隣市と比較して、どのような位置辺りかをお聞かせ願います。また、美馬市も臨時職員が増加していると思われませんが、正規職員が行うべき業務を行っている実状はあるのか、その点お尋ねをいたします。そして職員の定数についてであります。職員の定数につきましては、美馬市職員定数条例において582人に定められておりますが、退職する職員、採用する職員のバランスにより管理されていると思われませんが、定数管理ができていますのかどうか、その点お聞かせを願います。

続きまして、美馬市CCRCの現状についてであります。美馬市生涯活躍のまち、美馬市CCRCにつきましては、平成27年12月議会において代表質問をさせていただきました。その後、平成28年2月に美馬市生涯活躍のまち構想・前期基本計画、美馬市生涯活躍のまちモデル事業プランを策定し、現在、移住者の受け入れに向け、計画を進めているところではあります。先般、美馬市生涯活躍のまちモデル事業、事業計画案の作成及び事業運営希望者の選定があり、法人が選定されたようではありますが、まず現在の進捗状況についてお聞かせ願います。

また、前回の代表質問時に、CCRCのメリット、デメリットについてお伺いいたしました。移住者の獲得、そこで働く場所の確保、それに伴う多くの人が集積するなどのメリットがあると考えられますが、都会で生活をしている方が全国にある多くの都市の中から美馬市を選んで移住してもらうということは、相当な努力が必要ではないかと思えます。恐らく全国に積極的にアピールを行っていると思われませんが、美馬市民にとってはあまり興味、関心が薄れているように感じております。そこでお尋ねをいたします。美馬市で生活をしたいと思ってもらえるような対策をとっているのか、その点お聞かせ願います。

3点目、国民健康保険の今後についてであります。現在の日本の医療保険制度は全ての国民が何らかの公的医療保険に加入し、お互いの医療費を支え合う国民皆保険制度であり、制度の確立から既に50年以上も経過し、今では国民誰もが保険証1枚で、どの医療機関にもかかれます。それを支える一つが国民健康保険制度であります。その美馬市国民健康保険につきましては、少子高齢化が進む中で財政上、運営が非常に厳しい状況であります。やむなく市民の皆様にも多くの負担を、お願いもさせていただいたのが現状であり、そのような中、平成27年度の国民健康保険法が改正され、平成30年度から徳島県が財政運営の責任主体となり、安定的な財政運営や効率的な事業の確保などの国保運営に中心的な役割を担うこととなりました。このことについても先般、新聞報道がありましたが、来年4月から徳島県が主体となるわけですが、詳細はまだ固まっていない感じがします。スムーズに移行するためには多くの課題を解決する必要があると思えます。

そこで2点お伺いいたします。1点目、現在の美馬市国民健康保険についての状況、加入者数、財政上の運営状況についてお聞かせ願います。2点目、徳島県への運営主体の変更について、現状、今後のスケジュールについてお尋ねをいたします。

以上につきお聞かせ願ひ、答弁により再問させていただきます。

◎企画総務部長（中川貴志君）

議長、企画総務部長。

◎議長（久保田哲生議員）

企画総務部長、中川君。

[企画総務部長 中川貴志君 登壇]

◎企画総務部長（中川貴志君）

15番、原政義議員からの一般質問のうち、私からは、まず、現状の職員数は合併時と比較してどうなのかとのご質問についてでございますが、合併直後の平成17年4月1日現在の職員数は557人ございました。本年4月現在の職員数は428人でありますので、この12年間で129人の減となっております。次に、類似団体と比較するとどうなのかとのご質問でございますが、現在、美馬市と同様の都市型I-Iに分類される類似団体は全国に116団体ありまして、普通会計ベースでの職員数は330人となっております。人口100人当たりの職員数は0.98人となっております。県内で同様の類似団体である吉野川市は0.83人、小松島市は0.89人、三好市は1.41人という状況でございます。美馬市の場合は普通会計における職員数が392人であり、人口100人当たりの職員数は1.20人となっております。この理由といたしましては、本市の地理的な環境から保育所や幼稚園の職員が多いこと、市の重要施策である保健指導を行う部門などで類似団体を上回る職員数となっていることによるものでございます。

次に、定数の管理はどうなっているのかとのご質問でございますが、美馬市の職員定数条例での職員定数は582人となっており、現在の職員数はこの定数より144人少ない428人となっております。この428人という職員数につきましては、平成25年9月開催の美馬市行財政改革調査特別委員会でお示しをいたしました平成30年4月1日現在の目標数値を1年前倒しで達成したものととなっております。

続きまして、臨時職員についての質問でございますが、本年4月1日現在、任用しております臨時職員数は176人であり、この内訳は市長の事務部局で127人、教育委員会の事務部局で49人となっております。主な職種といたしましては、一般事務が35人、小中学校の助教員や保育士、幼稚園の助教諭、支援員などが92人、給食調理員が25人などといった状況でございます。この臨時職員数につきましては、合併直後の平成17年度と比較して84人の増加となっておりますが、この要因といたしましては子育て支援に対するきめ細やかな対応、また、新たな行政需要への対応に伴うものでございます。なお、臨時職員につきましては、一般事務におきましては補助的な事務を行っており、認定こども園や幼稚園では低年齢児の増加や入所基準の拡充に伴う副担当として、また、障がい児や多動性児童の入所に伴う加配職員としての役割を担っているところでございます。

◎市民環境部長（山田一弘君）

議長、市民環境部長。

◎議長（久保田哲生議員）

市民環境部長、山田君。

◎市民環境部長（山田一弘君）

続きまして、私からは美馬市CCRC関連のご質問にお答えをさせていただきます。1点目の美馬市CCRC構想の現在の進捗の状況ということでございますが、平成28年2月に美馬市生涯活躍のまち構想・前期基本計画と美馬市生涯活躍のまちモデル事業プランを策定しております。その後、全国的な動向、また、国・県からのご助言、先行事例運営事業者へのヒアリング、その他関係機関との意見交換などを踏まえまして、よりよい形での事業実施を目指し、平成29年3月にモデル事業プランの一部変更を行ってきているところでございます。これらの計画等の趣旨を踏まえ、本年6月5日から30日までの間におきまして、移住促進拠点運営法人の募集を実施いたしました。募集の際には、多くの事業者からの参画が得られますよう、美馬市ホームページへの掲載のほか、新聞各社へ紙面掲載の要請も行っております。募集の結果、美馬市外の2つの法人から応募があり、7月25日には副市長を始め、関係部長により構成いたしました審査会を開催し、それぞれの法人から企画提案書の説明を受けております。審査の結果、有限会社円満を最優秀提案法人とし、採用、採択してきたところでございます。現在、事前協定書を締結し、移住促進拠点におけます整備内容につきまして、鋭意協議を進めているところでございます。

2点目の、美馬市で生活をしたいと思ってもらえる対策についてのご質問でございますが、本年6月に徳島版地方創生特区の指定を受け、とくしま回帰加速化支援交付金を活用した四国大学との連携によりますいきがい支援プログラムの開発事業を進めているところでございます。具体的内容でございますが、本市への移住希望者や移住者の方々を対象に、暮らしや歴史、文化、自然、観光等を理解していただくため、生涯学習講座と位置づけるみま学講座を開設してまいりたいと考えております。この事業は、移住者を受け入れるに当たり、売り・強みとなるだけでなく、移住者・市民双方にとってのアクティブライフを送る環境整備を行うものであり、将来にわたり大変重要かつ意義深い事業でございます。引き続き、四国大学との連携を十分に図りながら取り組んでまいります。また、移住促進拠点において運営法人が行う独自事業といたしまして、小星地域を中心とした休耕地などの利活用や、そこで生産された農産物の加工販売、ブランド化などの提案がなされてきているところでございます。このことは、地域に仕事をつくり、雇用を創出し、所得の向上を実現して、新たな人の流れをつくるということと合わせまして、観光分野への波及効果も見込まれる提案であることから協議を進めているところでございます。なお、事業の詳細につきましては、今後、移住者の住居整備の規模も含めまして事業計画が整理され、本協定の締結に至りましたら公表させていただきますので、ご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

◎保険福祉部長（四宮 明君）

議長、保険福祉部長。

◎議長（久保田哲生議員）

保険福祉部長、四宮君。

◎保険福祉部長（四宮 明君）

私からは、原政義議員の一般質問の中で、国民健康保険の今後について、順次答弁させていただきます。

まず、美馬市の現状、加入者数や運営状況についてのご質問でございますが、美馬市国民健康保険の平成28年度末での加入者の状況は世帯数で4,058世帯、被保険者数は6,364人でございます。平成27年度末に比べ被保険者数は270人減少いたしております。また、平成28年度の1人当たりの医療費は約45万7,000円となっておりまして、平成27年度に比べ約2万6,000円増加いたしております。このように少子高齢化などの影響で年々被保険者数が減少しているにもかかわらず、1人当たりの医療費が増加しているという状況でございます。その結果、合併当初には国民健康保険事業財政調整基金が約6億円ございましたが、平成28年度末には約1億9,000万円となっておりまして、約4億1,000万円減少しております。このような厳しい本市の国民健康保険の状況を受けて、歳入面では平成26年度に国民健康保険の保険税率の改定をさせていただいております。また、歳出面では医療費の削減を図ることが重要でございますので、レセプトの点検やジェネリック医薬品の使用促進のほか、各種検診の受診率向上対策や医療機関と連携いたしました、きめ細かい保健指導など、様々な取り組みを推進しております。

次に、運営主体の変更についてのご質問でございますが、先ほど申し上げました国民健康保険を取り巻く状況は、本市だけでなく全国的にも同様の状況となっております。持続可能な医療保険制度の確立を図るための改革が求められているところでございます。こうした状況を受けまして、平成27年5月に医療保険制度の財政基盤の安定化を図り、将来にわたって国民皆保険を堅持していくため、国民健康保険法等の一部を改正する法律が成立をいたしました。これによりまして、これまで各市町村が国民健康保険の運営を行ってきたものが平成30年度からは都道府県が財政運営の責任主体となり、市町村との適切な役割分担のもと、国民健康保険の運営に中心的な役割を担うこととなりました。それぞれの具体的な役割につきましては、まず、都道府県につきましては主に国民健康保険運営方針の策定、市町村が都道府県に納付することになっております国保事業費納付金の決定や各市町村ごとの標準保険料率の算定を行うこととなっております。また、市町村につきましては、被保険証の発行など資格管理事務や保険給付事務、保健事業などの業務を引き続き担うこととなっております。なお、保険税率の決定、賦課徴収事務につきましても市町村で引き続き行いますが、保険税率につきましては都道府県から提示されます標準保険料率を参考に決定することとなっております。

今後のスケジュールでございますが、制度移行に向けた電算システムの改修等につきましては今年度末までに完了させる予定にしております。また、県・市町村及び国保連合会の事務調整につきましては国保運営方針連携会議において協議しておりまして、本年度は今までに3回開催されております。この会議におきまして、国民健康保険の資格、給付などを事務手続などについて協議しておりまして、本年度末までには調整を終える予定としております。なお、県が算定する国保事業費納付金及び標準保険料率につきましては、国

が定めましたガイドラインに沿って算出されることになっており、また、仮算定数値が本年12月ごろに、また、確定数値が来年1月ごろに提示される見込みというふうになっております。こうした提示を受けて、国民健康保険税率の改定が必要な場合には来年3月定例会において議案を提出したいと考えております。今回の国民健康保険制度の見直しにつきましては、制度創設以来、半世紀ぶりの大改革でございまして、本市といたしましても平成30年4月からの国民健康保険の運営が円滑に遂行できますよう万全を尽くしてまいりたいと、このように考えております。

◎15番（原 政義議員）

議長、15番、再問。

◎議長（久保田哲生議員）

15番、原政義君。

[15番 原 政義議員 登壇]

◎15番（原 政義議員）

それぞれに対しましてのご答弁、ありがとうございます。再問をさせていただきます。

職員の適正配置については、条例で定められた定員数を下回っており、臨時職員につきましてはあくまでも補助的業務を行っているとの答弁でありました。今後も職員の適正化に努めていただきたいと思います。そのようなところではありますが、職員の採用についてお伺いいたします。今、国は地方創生を掲げ、多くの業務が増えております。市町村の行政サービスは増大し、高度化・複雑化しており、更に市民が行政に対するニーズも増えてきております。そのような中、今後の美馬市の人口動向、財政状況を見ながら職員の適正な管理を行っていくのは非常に苦労が要るかと思われまます。そのような状況下では職員に求められる能力が非常に大きいものとなっているのではないのでしょうか。

そこでお尋ねをいたします。職員の採用については、筆記試験・小論文・実技・体力検査・面接などを行い、公正に採用を行っているところではありますが、大学入試などでよく聞く選抜入試ではありませんが、学力など基礎知識は必要と思われまます、秀でた能力を見だし、採用することはできないのかお伺いをいたします。市内には貴重な人材、美馬市にとって必要な人材、逸材が沢山います。高度化・複雑化する行政ニーズに的確に対応するために、一芸に秀でた職員を採用するなど、総合的に評価をする方式での積極的な職員の採用も検討できないのか、その点お聞かせをいただきます。

美馬市CCRCにつきましては、とくしま回帰加速化支援金を活用し、四国大学との連携により、生涯学習講座と結びつけ、いきがい支援プログラムを開発しているということでありました。このことはとてもすばらしい事業であると考えまます。よりよいものとし、移住者の獲得に向け、進めていただきたいと思います。しかしながら、このようなすばらしいことにつきましては積極的なアピールが必要ではないかと考えまます。まだ、計画段階であっても、絶えず先に、先に美馬市をアピールする必要があるのではないのでしょうか。徳島県のキャッチコピー「v s 東京」と同様に、東京にはなく、美馬市にあるもの、美馬市にしかないものをピーアールしなければなりません。

そこでお伺いをいたします。まず、今後のスケジュールについてお聞かせ願います。そ

して数ある市町村から美馬市を選んでもらうための手段、美馬市ならではのものの発掘と方法、周知方法についてお伺いいたします。手段につきましては、先ほどのご答弁にもありました四国大学との連携による生涯学習と結びつけるなど、美馬市ならではのという特徴的なものを発掘していかなければなりません。地域の魅力、地域の力を再発見し、それを大いに活用していかなければならないと思われます。このことについては、美馬市民、特にC R Cの拠点となる地域住民との協力が必要不可欠であり、地域との連携、移住者と地域住民との一体感を出していく仕組みづくりが必要ではないかと考えております。移住者と地域を結ぶ、つなぐコーディネーターを配置されておりますが、地元において積極的に多くの市民の意見、子どもから大人までの意見を聞く場所の設定が必要なのではないでしょうか。そのことについてお聞かせ願います。また、周知方法について現在どのように進めているのかお尋ねをいたします。

美馬市国民健康保険の今後につきましては、徳島県が財政運営の責任主体となるが、資格管理、保険給付、保険料率の決定、賦課徴収保険事業等は、引き続き市町村が行うことになるということですが、先般の新聞報道にありましたが、国民健康保険税が来年度どうなるのか、これが一番不安ではないでしょうか。県の試算では、美馬市の保険料は現段階で6.6%上がる予定で、まだ確定ではなく、来年度からは保険料がどうなるのか、また手続はどうなるのかなど、市民に対して詳細に、また丁寧に説明する必要があると思われます。そこでお伺いをいたします。運営主体の変更に伴い、市民にどのような影響があるのか、また、今後どのようにして周知していくのか、その点お尋ねをいたします。

以上につき、お聞かせ願ひ、答弁により、再々問させていただきます。

◎市長（藤田元治君）

議長、市長。

◎議長（久保田哲生議員）

藤田市長。

[市長 藤田元治君 登壇]

◎市長（藤田元治君）

15番、原政義議員からの再問であります。私からは職員の適正配置についてお答えをさせていただきます。積極的な人員採用はできないかのご質問でございますが、合併以降、職員全体では129人を削減しております。そうした中でも、市民の安全・安心に直結します消防職員や子育て支援のために必要となります保育士などは増員し、一般事務職員を主として職員数の削減に努めてきたところでございます。こうした状況下ではありますが、国からはさらなる行革を進めるよう昨年8月に総務大臣通知「地方行政サービス改革の推進に関する留意事項について」が発出されております。これは地方財政が依然として厳しい状況にある中で、効率的・効果的な行政サービスを提供する観点から民間委託やクラウド化等の業務改革の推進に努めるよう各地方公共団体に要請されたものであります。そうしたことから、今後も財政健全化を進めつつ、人口減少に少しでも歯止めをかけ、美馬市を県西部の中核拠点として発展させるためには、民間にできることは民間に委ね、真に行政として対応しなければならない施策、課題に重点的に対応した、簡素で効率

的な小さな政府、小さな行政の実現が避けられないと考えております。今後におきましても、より優秀な人材の採用を心がけ、各種の研修などにより、個々の職員の能力の向上を図るとともに、施策の選択と集中といったことを行い、効果的・効率的な行政サービスの提供をしてまいります。

◎市民環境部長（山田一弘君）

議長、市民環境部長。

◎議長（久保田哲生議員）

市民環境部長、山田君。

[市民環境部長 山田一弘君 登壇]

◎市民環境部長（山田一弘君）

続きまして、私からは美馬市CCRCの現状について、2点の再問にお答えをさせていただきます。

1点目の今後のスケジュールについてのご質問でございますが、現在、運営法人からの提案をもとに進めております整備内容や双方の事業分担が合意に至り、年内に本協定の締結が行われましたら、移住促進拠点の整備予定地であります脇町小星地区の徳島県所有地の取得に向けた本格的な協議を進めてまいります。その後の事業スケジュールといたしましては、平成30年度に用地取得、全体設計、造成工事等を考えております。翌31年度からは建屋の建築工事に着手いたしまして、平成33年度中の事業開始を想定いたしているところでございます。なお、移住促進拠点事業を継続的に提供していくためには、本市と運営法人の初期投資費用や維持費用を最小限に抑える努力は必要不可欠であり、整備内容が過大にならないように状況を見極めながら段階的な整備を図りたいと考えております。また、地元との連携につきましては、昨年10月に美馬市生涯活躍のまち構想に係る説明会を開催し、徳島県所有地を移住促進拠点として整備する構想についてご理解を賜ってきているところでございます。説明会では近年、地域の課題となっております高齢化に伴う日常生活への不安や、後継者不足などから年々増加しつつある休耕地の解消に向け、移住者の方に活用してもらいたいなどのご意見を伺っております。また、移住者と地元をつなぐ役割を担うアクティブライフ・コーディネーターとして、昨年度より美馬市社会福祉協議会からの出向職員が地元のワークショップなどに参加をさせていただき、地域の課題やニーズの把握に努めてきているところでございます。今後も引き続き、地元の方々としっかり連携を図り、美馬市生涯活躍のまち構想の推進に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、美馬市で生活したいと思ってもらえる対策についてのご質問でございますが、国により作成されております生涯活躍のまち構想に関する手引きによりますと、生涯活躍のまち構想は、単に都市部のシニア層が希望に応じて地方に移住することだけを目的としているわけではございません。人口減少の時代において、この生涯活躍のまち構想の取り組みをきっかけとして地域の魅力、地域の力の掘り起こし・再発見につながることで、また、他の施策や取り組みを巻き込むことでそれぞれの地域が維持・発展していくことも期待をされているところでございます。原議員よりいただきましたご意見も参考とさせていただきます。

き、美馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略のより一層の推進に当たり、今後ともPDC Aサイクルにより各施策を展開いたしまして、魅力あるまちづくりに努めたいと考えております。また、周知方法についてでございますが、移住体験ツアーの実施や東京、大阪を中心とした移住フェア相談会への積極的な参加と合わせ、美馬市移住促進サイトなど様々な機会や媒体を通じプロモーション活動に取り組み、美馬市の魅力を全国に発信し、移住・定住の促進に努めてまいりたいと考えております。

◎保険福祉部長（四宮 明君）

議長、保険福祉部長。

◎議長（久保田哲生議員）

保険福祉部長、四宮君。

[保険福祉部長 四宮 明君 登壇]

◎保険福祉部長（四宮 明君）

続きまして、私からは国民健康保険の運営主体の変更に伴う市民の皆様への影響、また、その周知についての再問にお答えさせていただきます。これまで市町村ごとに行っていた国民健康保険の資格管理が都道府県単位で管理する仕組みに変更されますが、国民健康保険に係る資格取得、喪失などの各種手続は今までどおり本市の窓口で取り扱うこととなっております。また、被保険者証の交付につきましても、本市からの発行ということになっており、変更はございません。また、保険給付や毎年7月から12月にかけて実施しております特定健康診査などの保健事業につきましても、引き続き本市で行いますので、こうした面での市民の皆様への影響は少ないものと、このように考えております。しかしながら、平成30年度から徳島県が国民健康保険の財政運営の責任主体となることから国民健康保険税率につきましても、県から提示されます標準保険料率を参考にいたしまして決定することになります。

ご質問のとおり、昨日の新聞報道で市町村別の標準保険料の試算値が公表されましたが、試算では平成28年度より増額となるのは本市を含む8市町とされておりました。また、本市の試算値で見えますと、額にして7,325円、約6.6%の増額となっております。しかしながら、この試算結果は平成29年度をベースにおける推計であることから、本年12月に公表される予定の平成30年度の試算につきましても大きく変動する可能性があるというふうにされております。

このように、県から提示される標準保険料率につきましても、本市の保険税に影響がでることから、そのような場合の対策として、国は暫定措置として公費投入を予定しております。また、県におきましても繰入金や特例基金などの活用により調整することとなっております。また、本市といたしましても国民健康保険事業財政調整基金の活用などを検討しております。こうした対策を講じることによりまして、市民の皆様には大きな影響が生じないよう努めてまいりたいと考えております。

次に、制度変更に伴う市民の皆様への周知につきましても、広報紙、広報みまTV、また、市ホームページを始め、様々な媒体、機会をとらえまして、より一層の周知に努め、制度移行が円滑に進むよう取り組みたいと考えております。

◎15番(原 政義議員)

議長、15番、再々問。

◎議長(久保田哲生議員)

15番、原政義君。

[15番 原 政義議員 登壇]

◎15番(原 政義議員)

それぞれについてご答弁ありがとうございました。

職員の適正配置につきましては、職員という大切な人材を生かし、市民の満足のいく行政サービスを提供していただきたいと思っております。職員の採用については、大変難しい問題であるかと思われませんが、市内には先ほども言いましたが、逸材が沢山います。総合的に考慮して、美馬市の能力ある人材を確保するため、多様なニーズに応える人材の確保に努めていただきたいと願います。

美馬市CCRCにつきましては、地元の皆さんとの連携のもと、地域を巻き込み、多くの市民を巻き込み、よりよいものとしていただきたいと願います。美馬市の魅力を全国に発信する必要があります。その点、よろしくお願い申し上げます。

国民健康保険の今後については、市民の皆さんに大きな影響が生じないように努めていくとのことですが、詳細が分かり次第、積極的な周知をしていただきますようお願いいたします。現在、美馬市の掲げるキャッチフレーズ「美来創生のまち美馬市」を実現するためには市民の皆様とともに市政運営を行うことが基本中の基本であります。市長を始め職員が市民と地域に寄り添い、将来の美馬市を描いていくことが地方創生が叫ばれる時代には大切であり、重要なことかと思われま。

最後に質問した事項につきまして、市長のお考え、意気込みをお聞かせ願ひ、一般質問をおきたいと思ひます。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

◎市長(藤田元治君)

議長、市長。

◎議長(久保田哲生議員)

藤田市長。

[市長 藤田元治君 登壇]

◎市長(藤田元治君)

15番、原政義議員からの再々問についてお答えをいたします。

まず、職員採用に関するご質問でございますが、地方公共団体を取り巻く環境の変化により、多様化する行政ニーズの中、自らの責任においてそれぞれの地域に応じた柔軟な行政サービスを提供することが求められております。それに伴い、課題を発見する力、そしてその課題を解決する力など、職員に求められる能力も、より高度化・複雑化しております。しかし、将来的な人口減少を念頭に、採用人数の増加は難しいことから、より優秀な職員を採用することが重要であると考へております。議員ご指摘のとおり、従来の採用試験では筆記試験だけでは計れない貴重な人材が振り落とされるなど、コミュニケーション能力や課題解決能力を持つ職員を選択することが困難な場合もございます。

そこで、主体的に行動する力や課題発見解決能力を持って仕事に取り組む人材を採用すべく、本市でも昨年度から人物を重視した採用を行うため、面接の回数を増やしたり、一部の試験においてはプレゼンテーションを取り入れるなどの取り組みを行っております。今後におきましても、様々な角度から採用試験を検証し、多くのすぐれた人材が受験しやすい採用試験とするため、多様な方法を検討してまいりたいと考えております。

次に、美馬市CCRCについてでございますが、美馬市生涯活躍のまちの構想におけます移住促進拠点整備事業を実施いたしますには、地元の方々のご理解、ご協力を賜りますことは大変重要なことでございます。今後も本構想を推進していくに当たり、市民の皆様や様々な施策との連携をより一層図り、それぞれの地域が維持・発展していきますよう取り組みを進めてまいりたいと考えております。

最後に、国民健康保険についてであります。先ほど保険福祉部長の答弁にもありましたが、今回の国民健康保険制度の見直しは制度創設以来、半世紀ぶりの大改革でありますので、市民の皆様方も重大な関心を持たれていると考えております。市民の皆様方への周知をより一層図り、混乱を招かないようにするとともに、制度の見直しにより市民生活に大きな影響が生じないように努めてまいりたいと考えております。

原議員の一般質問では、貴重なご意見、ご提言をいただきました。限られた人材、財源を有効に活用し、多様化・高度化する市民ニーズに機動的・弾力的に対応しつつ、市民サービスのさらなる向上を図ってまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いをいたします。

◎議長（久保田哲生議員）

ここで、議事の都合により10分程度小休いたします。

小休 午前10時54分

再開 午前11時04分

◎議長（久保田哲生議員）

小休前に引き続き、会議を開きます。

次に、議席番号16番、川西仁君。

◎16番（川西 仁議員）

16番、川西。

◎議長（久保田哲生議員）

16番、川西仁君。

[16番 川西 仁議員 登壇]

◎16番（川西 仁議員）

失礼をいたします。今回は代表質問4名の方、そして一般質問が、私を入れて4名。そして本日が最後ということで、いささか緊張をしておるところでございますが、お昼までおつき合いをしていただきたいと思います。

私も、通告どおり、3件通告しておるわけでございますが、1件につきましては、平成29年の今回の9月補正予算、これにつきましては6月にも同じような質問をさせていた

だきましたが、6月、そして今回の9月、藤田市政によってこの補正予算が財源と絡みましてどのように変わっているかを今回も質問をさせていただきたいと思います。そして内容につきましては、補正予算のこの内容、これの特徴についてをお伺いしたいと思います。また、これの補正によります来年度予算との今後の見通しについてを続けて聞かせていただきたいと思います。

そして2件目といたしましては、市内業者の受注機会の確保について。ちょっと件名が分かりにくいかと思うんですけど、これにつきましては大型建設工事における市内業者の下請の現状等につきましてをお伺いしたいと思います。そしてこの現状を聞いた結果、現在の取り組み内容、そしてそれに合わせた今後の方針についてを合わせてお伺いしたいと思います。

3件目といたしましては、中山間地域の活性化への取り組みについて、こういったものをお伺いしたいと思います。これにつきましては、我々、議会のあり方協議会、こういったものを市内全域で活動させている状況でございますが、こういった時にこれらの中山間に対してのご質問をいただいたわけでございますので、この中山間活動、こういった活動した具体的な内容、中身につきまして、そしてそれらの活動状況をお聞きして、今後どのような展開にいかれるのかお伺いしたいと思います。それでは早速質問に入らせていただきたいと思います。

まず1点目、平成29年度当初予算につきましては藤田市長就任後、独自の予算編成で市長の考えが主体となったものの、こういったもののスタートであったように思われます。当初予算につきましては197億9,200万円、こういうものでございまして、これにつきましては前年度より45億6,500万円の減、こういったものでありまして、これを率にいたしますと18.7%の減であったと。大変驚いたところでありました。これにつきましては、大型プロジェクト事業の終了によりますものが、最大の要因になったもので、それらの内容につきましては、拝原最終処分場適正処理事業、また、美馬地区統合小学校建設事業の終了や、現在進行中であります地域交流センター整備事業の事業費の減少によりますものがそれらの要因になったというものでございました。そしてそれらに加えまして、市長の考えが当初予算の総額を200億円、これを未滿にするというお考えのもとに、限られた財源の中で各種事務事業、こういった内容を厳しく精査するというものがこれらの大型事業の終了と重なりまして、前年度より45億6,500万円もの減、こういった大きな幅の減額につながったものでございました。

こうした当初予算での本年平成29年のスタートでありましたが、前回の6月議会での一般会計補正予算につきましては5億3,000万円を追加して、一般会計の予算の総額が203億2,200万円というものでございました。そしてこの5億3,000万円の中身といたしましては、穴吹地区認定こども園の用地補償費や美馬地区におけます道の駅、これの外構設備工事費、また備品購入費、こういったもので3億510万円というものが大半を占めるものでございまして、ほかには観光に対します、こういった事業費や市道林道に対します整備費や、また小中学校におけます理科教育等設備等整備事業費などが含まれたものでございまして、これらを合わせますと、5億3,000万円という6月補正予

算につきましては比較的大きな補正額というものでございました。3月の当初予算におきましては、大きな幅の減額でスタートを切れたものでありますが、その後の6月議会の補正額では5億3,000万円の追加というものでございまして、大きな大型事業の終了によります予算の減額になったものの、その後の事業の始まりによります追加が、6月補正の内容であったように見受けられます。

私は6月議会におきまして、こうした内容の指摘をさせていただきましたが、今回もこういったものを踏まえさせていただきますとお伺いするものでありますが、平成29年9月、この補正予算につきましては歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ6億6,200万円、これを追加し、補正後の歳入歳出予算の総額を209億8,400万円とするもの、こういったものでございますが、今回のこの6億6,200万円の補正予算の内容と特徴につきまして、まずお伺いをしたいと思います。

続きまして、美馬市におきます公共工事の発注につきましてでございますが、先の予算での質問でも何件か出ておりましたが、ここ数年間の間に比較的大きな建設事業が行われてきたように思います。穴吹庁舎増築事業や拝原最終処分場適正処理事業及び築堤事業、また、美馬地区統合小学校建設事業、また、美馬認定こども園建設事業、株式会社大塚製菓を誘致を行うための里平野・横尾地区工業用造成工事、そしてショッピングセンターパルシーを改修をし、現在も工事が進んでおられる地域交流センターの整備工事など、ここ数年間の間に工事を発注し、完成したものや現在も工事を進めているものが数多く見受けられるわけでございます。また、最近におきましては、道の駅みまの里、これの新築工事や、今議会の冒頭、先議で行いましたブルーヴィラ穴吹の改修工事、請負契約、こういったものの工事を発注しておるところでございます。

美馬市におきましては、いろいろな建設工事を発注しているところでありますが、工事の規模の大きい事業につきましては、請負事業者、こういったものにつきましては大手ゼネコン、若しくは準大手ゼネコン、こういった業者らに請け負うという形になっております。これらの工事につきましては当然、請負業者だけの工事の完了は無理がありますので、下請業者にいろいろな部分で協力をお願いするようになるかとは思われますが、こういった時に美馬市内においておられる業者、こういった業者さんがどの程度の割合で参入をされておられるのでしょうか。美馬市発注の工事で、美馬市へ税を収めていただいている業者の皆さんがどの程度の割合で下請に参入できておられるのでしょうか。そしてそれらを発注しておられる美馬市の担当の方々がどのようにこれを把握されておられるのでしょうか。また、こういった形でこれらの業者を下請に参入できるようにお願いができていのでしょうか。市内業者の受注機会の確保、こういったところを大型建設工事におけます市内業者の下請の現状、こういったところをお伺いしたいと思います。

続きまして3点目の、美馬市におけます中山間地域では、過疎と高齢化が進み、道路や水路の清掃作業、防犯・防災活動、集会施設の管理といった、そこに住み続けるために必要な活動や祭り、運動会などの季節行事の開催、冠婚葬祭時の相互扶助、共同利用の農業用施設の管理、文化や芸能の伝承など、集落の機能が著しく低下をしているように見受けられます。そしてまた、過疎・高齢化の進行と農林業の停滞に伴う後継者不足により、耕

作放棄地や適切に管理されていない、こういった山林が増大をしており、病虫害の発生や有害鳥獣によります農作物への被害そして景観の悪化など、様々な問題が発生をしておるように思われます。

こうした中、先ほども申しました、先般、美馬市議会あり方検討協議会、こういったものを協町地区で開催をさせていただきました折に、この中山間地域の問題につきまして、ご指摘をいただいたところでございます。この問題をご指摘された方におかれましては、まさしく冒頭で今述べさせていただいたとおりのことを中山間での問題点をご指摘され、美馬市におけます中山間対策に強く要望をされ、中山間地域の存続に熱意を込められておりました。美馬市におきます中山間地域への取り組みにつきましては今までいろいろなものがあつたように思われますが、そういったものがまだまだ問題点の解消につながっていない。こういったようなご指摘であつたかのように思い出されます。市民よりこのようなご指摘をいただきましたので、改めて中山間地域の活性化、こういったものの取り組みにつきまして、どのような取り組みを行っておられるのか、また、行ってきたのかをお伺いしたいと思います。

以上3点、質問をさせていただきましたので、ご答弁により再問とさせていただきますので、ご答弁の程、よろしくお願いを申し上げます。

◎企画総務部長（中川貴志君）

議長、企画総務部長。

◎議長（久保田哲生議員）

企画総務部長、中川君。

[企画総務部長 中川貴志君 登壇]

◎企画総務部長（中川貴志君）

16番、川西仁議員の一般質問、平成29年9月補正予算についてのうち、補正予算の内容と特徴についてお答えをいたします。

今回の一般会計補正予算につきましては、6億6,200万円を追加計上したものでございます。主な内容といたしましては、まず現在整備中の地域交流センターの舞台大道具や照明、音響設備のほか、図書館、会議室、小規模保育所等の備品購入費といたしまして、合わせて1億6,130万円を計上いたしております。また、株式会社テレコメディアとの事業所の立地に関する覚書に基づきまして、地域交流センター内に機能が移ります協町図書館をコールセンター誘致施設に改修する経費といたしまして7,500万円を、更に地域交流センターへの機能移転に伴う協町図書館の移転経費として1,010万円を計上いたしております。なお、協町図書館の図書につきましては、いったん旧芝坂小学校へ移転し、整理を行った後、地域交流センターのオープンに合わせて再び移転することといたしております。また、当初予算に実施設計費を計上しておりました協町公民館及び旧協町郵便局の解体撤去及び跡地整備費として、合わせて4,100万円を計上いたしております。これらを通じ、協町中心部における公共施設の再編整備と遊休資産の有効活用を図りますとともに、雇用の創出により地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。

一方、地域交流センターへ移ります脇町市民サービスセンターにつきましては、従来の平日に加えまして年末年始を除く毎週日曜日についても、開所することといたしております。今回の補正予算に導入経費3,420万円を計上いたしております住民票等のコンビニ交付サービスと合わせまして、市民の皆様の利便性向上につながる施策を進めてまいりたいと考えております。このほか、儲かる観光の実現に向け、民間的な手法による観光地域づくりのかじ取り役としての役割が期待されます美馬市版DMC設立のための出資金1,000万円や穴吹地区認定こども園建設用地の造成経費として5,000万円、市道の維持補修や市が管理する河川のしゅんせつ水路工事に要する経費といたしまして、合わせて1億1,200万円を計上するなど、今回の補正予算につきましては地域経済の活性化や市民生活に直結する経費を中心に計上させていただいております。

一方、この補正予算の財源についてでございますが、過疎債や合併特例債などいわゆる有利な起債を活用はしておりますが、市債を1億6,810万円計上いたしております。一般財源につきましても普通交付税や前年度繰越金などで3億6,374万円を計上いたしております。こういったことから来年度以降の財政運営に支障を来さないよう執行段階におきましてもこれまで以上に注意を払ってまいりたいと考えております。

次に、市内業者の受注機会の確保についてのご質問のうち、大型建設工事における市内業者の下請の現状とのご質問にお答えをいたします。本市の建設工事や委託業務などの発注におきましては、高度又は特殊な技術を要する工事などの例外的な案件を除きまして、基本的には市内業者を対象とした指名競争入札によりまして価格競争を行いまして落札者を決定しているところでございます。また、設計金額が1億5,000万円以上の建設工事や市内業者だけでは競争性が確保できない建築工事などにつきましては、原則として市外業者も参加できる一般競争入札によりまして競争性を確保した上で価格競争を行いまして落札者を決定しているところであります。こうした価格のみの競争によって決定した全ての落札者に対しましては関係法令に抵触しないようにあくまでも要請といった形で市内業者の下請使用や市内での資材の調達などを優先的に配慮いただくよう依頼をしているところでございます。

そこで、ご質問の大型の建設工事における市内業者の下請の現状といたしましては、一般競争入札により発注した工事のうち主なものについて確認ができた範囲とはなりますが、申し上げたいと思います。まず、平成26年度から28年度までの間に施工いたしました里平野・横尾地区工場用地造成工事でございます。この工事は総合評価落札方式を採用したものでありまして、工事請負金額は約9億2,300万円であり、この額に占める市内業者の下請金額は約6億9,600万円でございます。次に、平成27年度及び28年度に施工いたしました美馬地区統合小学校の新築工事におきましては工事請負金額は約17億300万円であり、この額に占める市内業者の下請金額は約3億1,100万円でございます。続きまして、平成28年度に着手し現在も施工しております地域交流センターの整備工事におきましては現在のところ、工事請負金額は約27億8,600万円となっており、この額に占める市内業者の下請金額は約1億500万円でございます。

ただいま申し上げました3件につきましては、それぞれの工種等が異なった建設工事で

はございますが、総合評価落札方式を採用した工場用地造成工事と比べまして、これ以外の2件の建設工事につきましては工事請負金額に占める市内業者の下請金額の割合はかなり低い状況であります。こうしたことから一般競争入札により発注する大型の建設工事などにつきましては、今後は原則として価格競争だけでなく、これに加えて施工能力そして地域貢献度も評価項目に設定をしまして総合的に評価する総合評価落札方式を採用いたしまして、最も高い評価点数を得た入札者を落札者とする方式を導入してまいりたいと考えております。

なお先般、起工式を執り行いました美馬町で整備いたします道の駅みまの里の新築工事の一般競争入札ではこの地域貢献度を評価項目に設定した総合評価落札方式によりまして落札者を決定いたしました。このことから市内業者の下請使用といった市内企業の活用につきましては一定の効果があるものと考えております。

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

議長、経済建設部長。

◎議長（久保田哲生議員）

経済建設部長、奥村君。

[経済建設部長 奥村敏彦君 登壇]

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

続きまして、私からは中山間地域の活性化への取り組みについてのご質問にお答えさせていただきます。本市の多くを占める中山間地域は傾斜地や狭い農地が多く、農業の生産条件が不利で、加えて少子高齢化などによる担い手不足が進行し、地域活力の低下に拍車がかかっている状況でございます。しかしながら、議員ご指摘のとおり、中山間地域は豊かで美しい自然景観を持ち、地域に根ざした伝統文化が残されている地域であり、また、食糧供給の面や、田畑や山林を適切に管理することによって災害の防止や水源の涵養が図れるなど、多面的な役割を果たしている重要な地域でございます。

こうしたことから本市におきましては、国の補助事業などを活用しながら条件が不利な地域における農業生産活動を継続するための支援制度である中山間地域等直接支払制度を始め、地域力の維持、活性化の人的な支援を行う地域おこし協力隊推進事業、集落支援員推進事業などに取り組んでいるところでございます。また、本市独自の事業といたしまして、高齢者を始め、市民の生活利便性を確保するため移動販売を行う事業者に対して補助を行う買物支援事業や農産物などの出荷不利な状況の改善及び買い物支援サービスを地域ビジネスモデルとした農産物等集出荷・買い物支援事業にも取り組んでいるところでございます。

今後におきましても、中山間地域の存続と活性化のためには、まず、地域住民の皆様が住み続けていただけることが必要かつ最低条件でございますので、生活基盤の整備や日常生活の支援体制の確保、産業の振興など、様々な角度から施策を検討してまいりたいと考えております。

◎16番（川西 仁議員）

16番、川西。

◎議長（久保田哲生議員）

16番、川西仁君。

[16番 川西 仁議員 登壇]

◎16番（川西 仁議員）

失礼をいたします。ご答弁をいただきましたので、早速再問に入らせていただきたいと思ひます。

まず、補正予算内容と特徴につきましては、現在整備中であります地域交流センターにおきましての備品の購入費に1億6,130万円で、コールセンター誘致に伴います脇町図書館の改修経費には7,500万円、そしてこの脇町図書館の移転費、こういったものに1,010万円を組んでおられるというものでございました。また、脇町図書館と旧脇町郵便局、これらの解体撤去及び跡地整備経費といたしましては4,100万円というものでございました。そしてこれらの事業につきましては、公共施設の再編整備と遊休資産の有効活用を図ることにより、雇用の創出によります地域の活性化へつなげる、こういったものが目的というものでございました。また、市民の利便性と向上を目的に、3,420万円を計上し、住民票等のコンビニ交付サービス、こういったものも進めていかれるというものでございました。これらのほかには、儲かる観光に向けました美馬市版DMC、こういったものの設立出資金、これが1,000万円、また、穴吹認定こども園の造成費、これが5,000万円、また、市道・河川・水路、こういったものの維持管理に係ります工事経費といたしまして1億1,200万円、こういったものにつきましては地域経済の活性化と市民生活に直結したものであるというものでございました。そしてこれら補正予算の財源につきましては、美馬市にとって大変有利な起債であります過疎債や合併特例債、こういったものを活用したものの、市債につきましては1億6,810万円というものでございまして、一般財源につきましても普通交付税や前年度繰越金、こういったものを合わせますと、3億6,374万円になるというものでございました。今回の補正予算につきましては、公共施設の再編整備と遊休資産の有効活用を図り、雇用の創出による地域の活性化、こういったものを図るものと、市民の利便性向上につながる施策というもので、地域経済の活性化や市民生活に直結する経費と、こういったものが理解ができたところではありますが、しかしながら、財源での市債の発行、こういったものが今後の財政運営上、不安視するところが見受けられるわけでございます。こういった観点も踏まえてお伺いするところでございますが、来年度予算と今後の見通し、こういったところにつきまして再度お伺いをしたいと思います。

次に、美馬市の大型建設工事におけます市内業者の下請の現状につきましてをご答弁いただきましたわけですが、まず、これにつきましては指名競争入札によって価格競争のもと、落札者の決定を行っておるということでございます。また、市内業者だけの競争性の確保ができないものにつきましては一般競争入札を行い、落札者の決定を行っているというものでございました。そして価格の競争のみによる落札者に対します市内業者の下請のお願いにつきましては、法令に抵触する恐れがあるために要請といった形のお願いになっておるというご答弁であったように思ひます。そして実際に工事を行ったもの

の例、こういったところを説明していただいたわけですが、里平野・横尾地区工場用地造成工事につきましては、先ほど工事請負金額につきましては約9億2,300万円、そして市内の下請業者につきましてはこの金額の9億2,300万円の中の約6億9,600万円というご答弁であったかのように思います。これは工事請負金額の7割強、こういったところが市内業者で下請を行ったようなものでございまして、この方式につきましては総合評価方式を取り入れたものだということでもございました。しかしながら、総合評価落札方式を取り入れていないあとの2点につきまして、美馬地区統合小学校の新築工事及び地域交流センター整備工事、この2つは総合評価落札方式を取り入れないやり方で行った結果、美馬地区統合小学校新築工事におけますは落札額が17億300万円、そしてこの額が占める市内業者の下請金額は約3億1,100万円。これは約2割ぐらいという判断になると思われま。そしてまた、地域交流センターにおけますは下請工事請負金額につきましては約27億8,600万円、そしてこの額に占める市内業者の下請金額は27億8,600万円のうち約1億500万円というものでございました。これはこの工事請負金額が、更に先ほどの2割というより更に低いものでないでしょうか。これら3件につきましては工種などがそれぞれ異なった工事ではありますが、市内業者の下請額がここまで違ってくるのかと感心させられることや、逆に腹立たしく思われるところがあります。今までは価格の競争に視野が向き、市内業者への配慮に欠けていたのではないのでしょうか。当然、法令に抵触しますから要請、こういった形のみになってしまうのも分かりますが、しかしながら工事の内容によって、ここまで数値が異なってくるというのは少し異常な形ではないでしょうか。先般、行われました道の駅みまの里の新築工事、これの一般競争入札では総合評価方式、こういったものを取り入れ、落札者の決定を行ったそうではありますが、市内業者の受注の機会の確保、こういった観点につきまして、現在の取り組み内容、これを改めて再度お伺いをしたいと思ひます。

そして3点目の中山間地域につきまして、美馬市におけます中山間地域の取り組みにつきましては、国の補助事業の活用を行い、中山間地域等直接支払制度や地域おこし協力隊推進事業、集落支援員推進事業に取り組んでおられる、こういったご答弁であったかのように思ひます。これらは農業生産活動を継続するための支援制度、地域力の維持、活性化の人的支援を行うものということでございました。また、美馬市独自の事業といたしましては、買い物支援事業や農産物等集出荷・買い物支援事業を行っており、これは高齢者などの市民生活の利便性を確保するため移動販売を行うものと、農産物の生産出荷不利な状況の改善や買い物支援サービスを行う、こういったものでございました。美馬市におけます中山間地域への取り組みについて、それらの取り組み状況は理解できたわけですが、先ほども説明がありました、美馬市の独自事業としての取り組み内容、こういったところを再度お伺いをしたいと思ひますので、ご答弁のほどよろしくお願ひをいたしたいと思ひます。ご答弁により再々問とさせていただきますので、よろしくお願ひをいたします。

◎企画総務部長（中川貴志君）

議長、企画総務部長。

◎議長（久保田哲生議員）

企画総務部長、中川君。

[企画総務部長 中川貴志君 登壇]

◎企画総務部長（中川貴志君）

私からは平成29年9月補正予算についてのご質問のうち、来年度予算と今後の見通しについてお答えをいたします。

まず、来年度の地方財政全般の動向についてでございます。本年8月31日に総務省が公表いたしました平成30年度地方交付税の概算要求の概要によりますと、一般財源の総額について平成29年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保するとされております。これにより出口ベースの地方交付税は前年度比2.5%の減となるものの、臨時財政対策債の発行で補うことにより、一般財源総額は確保される見通しとなっております。また、あわせて公表されました平成30年度地方財政収支の仮試算におきましても一般歳出が前年度比で1.2%の増となっております。よって今後の地財折衝を見守る必要があるものの、平成30年度に一般財源総額が大幅に削減される可能性は低いと考えております。

一方、本市におきましても、地方交付税総額の減少に伴います特別交付税の減少や臨時財政対策債発行残高の累増によります中長期的な財政運営への懸念はございます。しかし、平成30年度予算におきましては本年度と同程度の一般財源を想定しております。そこで歳入歳出両面からの増減要因といたしましては、地方交付税の合併算定替え加算に代わり、合併に伴う広域化算定が反映されること、また、穴吹庁舎増築・改修事業債の償還が一部を残して終了すること、そして地域交流センターや美馬地区道の駅の運営が開始すること、老朽化に伴う施設備品の更新・修繕が増加することなど、これらの増減要因を見極めまして予算編成に臨むこととなります。なお、今回の地方交付税の概算要求の根拠となりました一般財源総額は、2015年度水準を下回らないよう実質的に同水準を確保するとの方針につきましては平成30年度で期限を迎えることとなります。本年6月9日に閣議決定されました「骨太の方針2017」に至る過程で経済財政諮問会議や財政制度等審議会におきまして地方公共団体の基金の増加が問題視されましたが、来年夏に策定される予定の「骨太の方針2018」に向け、平成31年度以降の一般財源総額に関するルールがどうなるのかが本市財政にとりましても非常に重要となってまいります。本市といたしましては、様々な政策課題に懸命に取り組んでいる状況を国にご理解をいただき、当面の財源を確保いたしますとともに、各種基金につきましても積立目的をしっかりと明示し、将来の財政需要に備えてまいりたいと考えております。

なお、本市の平成30年度予算につきましては、今後、予算編成方針を定め、編成作業を行うこととなります。平成31年度以降を見据え、市債発行額の抑制や経費の節減に努めつつ、「美来創生のまち美馬市」実現に向けた施策や、地域の課題解決につながる施策、これらを盛り込んでいくことができると考えております。

次に、市内業者の受注機会の確保についての再問といたしまして、現在の取り組み内容はとのご質問でございます。今後、本市が大型の建設工事を発注する際に原則として採用してまいります一般競争入札の総合評価落札方式につきましては先般発注いたしました道

の駅みまの里の新築工事を例といたしましてご説明を申し上げます。この総合評価落札方式におきましては、価格競争に加え、評価項目の中に施工能力、そして地域貢献度として市内企業活用の項目を設けまして、市内業者の一次下請金額の割合が多い、また、市内で調達するコンクリートの金額の割合が多いとの入札をした者が高い評価点を得るようになっておりました。現在のところ、まだ、一次下請やコンクリートの調達に関する書類が提出されていないことから市内業者との一次下請の契約などによって見込まれます金額などを申し上げることができませんが、この工事の落札者は市内業者に対する一次下請金額を一次下請金額の総額の50%以上、また、市内で調達するコンクリートの割合をコンクリートの調達額の50%以上と、それぞれについて評価が満点になるような入札をされておりますことから、一定の効果が見込まれるものと考えております。なお、地域貢献度の履行を確保するために工事の完了後において合理的な理由がなく、こうした地域貢献度が達成できていなかった場合には一定の計算式により算出された金額を支払時に工事請負代金から差し引くといったペナルティーを設定しているところでございます。

この地域貢献度を評価項目に設定した総合評価落札方式のメリットといたしましては、市内の業者の下請の受注機会が増加することによりまして、例えば下請において経験を積むことで施工実績の向上など、市内業者の育成につながりますとともに、市内でコンクリートなどの建設資材の販売額が増加するなど、地域経済の活性化にもつながるものと期待をしているところでございます。一方、価格だけの競争ではないため、最低入札金額の入札者が落札者にならない場合や地域貢献度などの評価項目が評価点の設定によっては応札者がなく、入札そのものが不調となることも考えられます。今後、本市が発注する大型の建設工事につきましては、原則として総合評価落札方式とする方針ではございますが、その執行に当たりましては適切な対応に努めるとともに地元企業の育成や地域経済の活性化につなげてまいりたいと考えております。

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

議長、経済建設部長。

◎議長（久保田哲生議員）

経済建設部長、奥村君。

[経済建設部長 奥村敏彦君 登壇]

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

続きまして、私からは中山間地域の活性化のための独自事業の具体的な取り組み内容についての再問にお答えをいたしたいです。本市で独自に実施をいたしております事業の主な取り組みといたしましては、木屋平地区を始め市内の買い物困難地域で実施をしている買い物支援事業、厚生労働省の委託事業として実施した農産物等集出荷・買い物支援事業、この2事業が挙げられるところでございます。まず、買い物支援事業につきましては、平成27年度より木屋平地区において民間事業者との協働により買物支援体制構築実証事業による実証実験を実施いたしました。この結果を踏まえ、移動販売を行う買い物支援業者に対して助成を行い、買い物困難地域であっても日常生活に必要な食料品、生活用品などが購入できるよう、木屋平地区はもとより市内全域で買物支援事業を実施しているところで

ございます。

次に、農産物等集出荷・買い物支援事業につきましては、美馬市地域雇用創造協議会が受託し、農産物などの地域資源の集出荷サービスや買い物弱者サービスを展開する地域ビジネスの実証実験を平成25年度から約2年間、実施をいたしております。引き続き平成27年度からは、ええね美馬地域ビジネス推進協会が事業を引き継ぎ、実証実験の結果やアンケートを実施するなど、地域の皆様方のご意見を踏まえ、本年4月1日より一般社団法人ええね美馬地域ビジネス推進協会として事業の展開を図っております。現在、週2・3回程度、集荷拠点に出向き、市内外の食料量販店、産直市などに出荷する集出荷サービスを行うとともに、民間事業者との提携による買い物支援サービスを実施しているところでございます。

◎16番（川西 仁議員）

16番、川西。

◎議長（久保田哲生議員）

16番、川西仁君。

[16番 川西 仁議員 登壇]

◎16番（川西 仁議員）

ご答弁をいただきましたので、それでは最後のまとめとさせていただきます。

まず1点目の来年度予算と今後の見通しにつきましては、総務省の発表からは平成29年度地方財政計画の水準を下回る、こういったものとされており、一般財源総額につきましては確保されているであろうものでございまして、これに合わせて平成30年度地方財政収支の仮試算におきましても前年度比1.2%の増となる、こういった見込みから判断をすれば、平成30年度におきましても一般財源総額が大幅に削減されることはないだろう、低いであろうというものでございました。これらの国の動向より美馬市の平成30年度予算につきましては、本年と同等、同じくらいの一般財源を考えられておられる。そしてこの財源をもとにいたしまして、来年度の予算編成に臨むことになるであろうというものでございました。また、国へ財源要求を行う際に地方公共団体の基金の増加が問題視をされており、これも美馬市の財政に非常に重要になってくるものでであろうというところでもございました。そしてこれらの政策課題に取り組みながら「美来創生のまち美馬市」の実現に向けた施策を今後考えられていくというものでございました。

そこで再度お伺いをするわけでございますが、来年度もある程度の財源確保の見通しができておられるというところで、こういったところで大型事業の終了が来ておるわけでございますが、この大型事業の終了後におけます事業の展開、こういったものが今後どのように推移していくのかお伺いしたいと思います。そして、また、継続した事業が一段落をした今、藤田市長の目指す「美来創生のまち美馬市」、こういった実現に向けました具体的な事業の進め方につきましてを最後にお伺いしたいと思います。

次の、市内業者の受注機会の確保、これにつきまして、現在の取り組み内容につきましては、一般競争入札におけます総合評価方式を取り入れることによりまして価格競争のほかに評価項目の中に市内企業活用、こういった項目を設け、市内業者の一次下請の割合、

こういったものが多かったり、市内での資材調達の割合が多ければ高い評価になるというものでございました。道の駅みまの里、これの新築工事、この落札者におかれましてはこの方式を取り入れて行うため、一次下請金額の50%以上、また、市内でのコンクリート調達が50%以上での評価が満点になられるというような仕組み、こういった入札だという説明でございました。また、地域貢献度が達成されなかった場合におきましては工事請負金額から差し引くというようなペナルティーを科すというものでございました。この地域貢献度を評価項目に取り入れられました総合評価落札方式につきましては、市内業者の受注機会の確保、こういった観点に非常に期待のできる方式であろうかとは思いますが、価格だけの競争でないため起こり得る最低入札金額の入札者にならない場合や地域貢献などの評価項目や評価点の設定によりましては応札者がなく不調と、こういったものが考えられる、逆の立場の考えもございました。この方式が市内業者の受注機会の確保、こういった観点につきまして大変期待ができるものではありませんが、不調になる恐れを考え、こういった時を考えた時、今後、市内業者の受注の機会の確保、こういったところにつきまして美馬市の今後の方針、こういったものを最後にお伺いをしたいと思います。

中山間の取り組みにつきましてでございますが、先ほどご答弁いただきましたが、美馬市の独自事業の具体的な取り組み内容は、1点目といたしまして木屋平地区を始めとしたしました市内の買い物困難地域での買い物支援事業と2点目の農産物等集出荷・買い物支援事業の2つがありまして、1点目につきましては木屋平地区で実証実験を行い、この結果を踏まえて買い物困難地域であっても、日常生活に必要な物が購入をでき、買い物弱者の救済が行えるというものでございました。そしてまた、2点目につきましては、美馬地域雇用創造協議会が集出荷サービスや買い物弱者サービス、こういったものの実証実験を2年間実施をされ、その後、これがええね美馬地域ビジネス推進協議会、この事業の引き継ぎを行い、本年4月1日からは一般社団法人ええね美馬地域ビジネス推進協会として事業の展開を図っているというものでございました。この2つの事業とも実証実験が終わっていて一つの事業におかれましては法人化を行って事業の展開を図っているものでございますが、これらの独自事業の今後の取り組み内容、こういったものを最後にお伺いしたいと思います。

以上3点、質問をさせていただきました。ご答弁をお願いして、私の質問を終わりたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

◎市長（藤田元治君）

議長、市長。

◎議長（久保田哲生議員）

藤田市長。

[市長 藤田元治君 登壇]

◎市長（藤田元治君）

16番、川西仁議員からの再々問でございますが、私からは平成29年度の補正予算についてお答えをいたします。まず、大型建設事業終了後における事業展開についてであります。議員ご指摘のとおり、穴吹庁舎増築・改修事業や美馬地区統合小学校建設事業は

既に完了し、地域交流センターと美馬地区道の駅の整備につきましても、本年度末をもちまして事業が完成予定でございます。一方、こうした大型建設事業を可能にしていまいりました合併特例債の発行期限が平成31年度末に迫っておりますことや、合併以降改善を続けてまいりました実質公債費比率が悪化に転じるなど、これ以上大型建設事業を積極的に展開することは極めて困難な状況でございます。更に人口減少や税収の増加が見込めない状況などを踏まえ、今後は最少のコストで既存の公共施設をどう活用するかに重点を置いた事業展開が必要となってまいります。

一方、継続事業が一段落した今、次の一手をどう打つのか、「美来創生のまち美馬市」実現のため、具体的にどういった事業を重点的に進めていくのかとのご質問をいただきました。昨年6月に市長に就任後、見直すべき施策は見直すと同時に、美来創生局を設置いたしまして、儲かる観光や企業誘致に新たな発想で取り組み、一部に成果も出てまいりました。また、美馬市産米を使った学校給食の実施、穴吹地区認定こども園の整備など、一歩先を見据えた子育て環境の充実にも取り組んでいるところでございます。今後は、次の一手を打つため、これらの施策を体系化いたしますとともに、限られた財源や人員で「美来創生のまち美馬市」を実現するためのビジョンや重点プロジェクトを打ち出す必要があると考えております。現在、庁内に組織を立ち上げ、検討を行っているところでございます。

一方、市の将来像や基本理念につきましては、最上位計画である総合計画に掲げられておりますことから整合性に留意することも必要でございます。こうした点を踏まえ、来年度当初予算と合わせてビジョン、重点プロジェクトをお示しできればと考えておりますので、ご理解を賜りますようよろしくお願いをいたします。

◎副市長（七條浩一君）

議長、副市長。

◎議長（久保田哲生議員）

七條副市長。

[副市長 七條浩一君 登壇]

◎副市長（七條浩一君）

続きまして、私からは中山間地域の活性化のための独自事業の今後の取り組み内容についての再々問にお答えいたします。独自事業の今後の取り組みといたしまして、まず、買物支援事業につきましては、地域の皆様方に非常に好評であると伺っており、引き続き事業の継続を図ってまいりたいと考えております。次に、農産物等集出荷・買い物支援事業につきましては、ええね美馬地域ビジネス推進協会におきまして、事業継続の必要性、今後の事業のあり方などを検証された結果、平成30年度より自主・自立運営へと移行する方針が打ち出されております。このため自主・自立運営に向け、代表理事を中心としまして新規会員の募集や販路の拡大などに努力することに加え、事業スキームの見直しを図るなど、健全な組織運営に努めるとのことでございます。また、平成30年度にオープンする予定の道の駅指定管理者との連携も視野に入れながら、農産物などの集出荷及び販売を中心とする地域ビジネスを企業・行政などと提携し、進めていきたいとの考えがあると伺

っております。市といたしましては、事業を継続していただくことが地域の皆様の利便性の向上につながるものであり、財政的な支援を行った経緯もございますので、ええね美馬地域ビジネス推進協会が自主・自立運営へ移行した後におきましても販路や関係する事業の情報提供を行うなど、しっかりサポートしてまいりたいと考えております。

◎企画総務部長（中川貴志君）

議長、企画総務部長。

◎議長（久保田哲生議員）

企画総務部長、中川君。

[企画総務部長 中川貴志君 登壇]

◎企画総務部長（中川貴志君）

私からは、市内業者の受注機会の確保についての再々問といたしまして、今後の方針はとのご質問にお答えをいたします。まずは、市内業者で対応できるものは市内業者に発注することを基本といたしまして、落札者が市内外のいずれの業者でありましても引き続き市内業者の下請や市内での資材の調達などを優先的に配慮いただくよう要請をいたしてまいります。一方、大型の建設工事などで採用する総合評価落札方式による案件につきましては、価格競争だけでなく、施工能力、そして地域貢献度などの地元優先に係る評価を総合的に行い、落札者を決定してまいりたいと考えております。なお、この総合評価落札方式の課題であります、万一、入札が不調になった場合の対応といたしましては、当該建設工事の工期や工種などによりまして、地域貢献度などの地元優先に係る評価の配点の見直し、あるいは一般競争入札や指名競争入札による価格競争を行うなど、再度発注をいたしまして、早期の事業着手に努めてまいります。今後におきましても、建設工事の発注につきましては、品質の確保を図りつつ、本市の活性化につながるようなよりよい方法につきまして、国、そして県などの他の自治体での実施例などを調査研究いたしまして検討してまいりたいと考えております。

◎議長（久保田哲生議員）

以上で、通告によります一般質問が終わりました。

これをもちまして一般質問を終結いたします。

次に、日程第3、議案第104号、美馬市農村地域工業導入審議会条例の一部改正についてから議案第113号、辺地に係る総合整備計画の変更についてまでの10件を一括し、議題といたします。

これより、質疑に入ります。

ただいまのところ、質疑の通告がありませんので、質疑なしと認めます。

これをもって、質疑を終結いたします。

ただいま、議題となっております、議案104号、美馬市農村地域工業導入審議会条例の一部改正についてから議案第113号、辺地に係る総合整備計画の変更についてまでの10件を、会議規則第37条第1項の規定により、お手元にご配付の議案付託表のとおり、各委員会に付託いたします。

また、陳情等の3件につきましては、所管の委員会に送付いたしますので、報告をいた

しておきます。

以上で、本日の議事日程は全て終了いたしました。

次に、休会についてお諮りいたします。

明日15日から27日までの13日間は委員会審査及び市の休日のため休会といたしたいと思えます。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

◎議長(久保田哲生議員)

異議なしと認めます。

よって、明日15日から27日までの13日間は休会とすることに決しました。

なお、19日の産業常任委員会、20日の福祉文教常任委員会、21日の総務常任委員会の各常任委員会及び22日からの決算特別委員会への付託案件等のご審議をよろしくお願いをいたします。

次会は9月28日午前10時から再開し、委員長報告に引き続き、質疑・討論・採決であります。

よろしくお願いをいたします。

本日はこれをもって散会といたします。

散会 午後0時05分

会議の経過を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

平成29年9月14日

美馬市議会議長

美馬市議会副議長

会議録署名議員 3番

会議録署名議員 4番

会議録署名議員 5番